

## EUSI メールマガジン Vol. 091

### 「EU 認識研究の最前線——日本の大学生は EU をどう見ているのか」(福井英次郎)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによる EU に関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)

[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 073】

#### 「EU 認識研究の最前線——日本の大学生は EU をどう見ているのか」

福井英次郎 (ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)研究員)

EU は日本で、どのような存在として見なされているのだろうか。

最近では、難民問題や経済問題などで、EU に対して否定的な印象を持っている人も多いただろう。しかし今をさかのぼること 10 年前の 2000 年代半ば、EU は好印象を持たれていた。

このように、EU に対する認識は一定しているわけではない。変化する EU に対する認識、特に EU 域外における EU 認識を研究するのが EU 認識研究である。

本稿では、EU 認識研究の最前線を、実例を用いて紹介したい。

EU 認識研究は 2000 年初頭にニュージーランドの国立 EU 研究センター(National Centre for Research on Europe)を中心に開始された。現在では世界各地の EU 認識が多様な手法で明らかにされつつある。これらの知見は、学問の世界だけでなくとどまらず、実際の EU 外交の現場では、特に広報外交の基礎資料として、用いられている。

本稿では、EU 認識研究の中で、特に日本の大学生の EU 認識に注目してみたい。その理由は、読者が大学生および大学関係者が多いと推測されるからである。本稿では特に、EU の対外的な影響力に対する認識を明らかにする。ここで用いるデータは、2014 年 4 月から 5 月にかけて、日本の大学生を対象に実施したアンケート調査である。全国 17 大学で実施し、有効回答数は 1314 人であった。

最初に、EU の国際的な影響力について、「環境」「貿易」「国際金融」「安全保障」「人道援助」「動物の権利」「非民主主義諸国への民主主義の促進」「国際テロの対策」の 8 分野で、EU が国際的な影響力があると思うか、「非常にそう思う」から「全然そうは思わない」の 5 段階で質問した。その結果、全 8 分野で、「非常にそう思う」「まあそう思う」の回答数は「全然思わない」「あまりそうは思わない」の回答数よりも多かった。特に国際金融と貿易の分野で、影響力があるとみなされていた。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol73.pdf>

#### 【EUSI イベントご案内】

1. ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)「第 82 回慶應 EU 研究会」

日時: 2016年5月7日(土) 13:00-16:00  
場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館4階会議室

西川雅史 (青山学院大学経済学部教授)  
「ロジャー・コングルトン著、横山彰・西川雅史監訳  
『議会の進化 立憲主義的民主統治の完成へ』について」

兼頭ゆみこ (中央大学法学部兼任講師)  
「混合協定とEU 環境諸条約を例として」(仮)

参加: 無料・事前申込不要  
主催: ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)  
<http://www.jean-monnet-coe.keio.ac.jp/>

## 2. 第8回一橋EU法研究会

日時: 2016年5月21日(土) 14:00-17:00  
場所: 一橋大学 (国立)東キャンパス マーキュリータワー5階 EUSI 会議室

引馬知子 (田園調布学園大学・EU 社会政策)  
「国連の障害者権利条約のEU の批准と審査」(仮)

大西楠・テア (EU 移民政策・ドイツ法)  
「ヨーロッパ人権条約、EU 法、ドイツ国内法の交錯 退去強制における人権保障を素材として」  
<https://sites.google.com/site/eulaw1284/2016nian-duno-yan-jiu-hui-yu-ding>

参加: 参加をご希望の方は、一橋EU法研究会にご入会下さい (以下HP参照)  
主催: 一橋EU法研究会  
<https://sites.google.com/site/eulaw1284/research>

## 3. 日本EU学会より国際学会報告若手研究者支援のご案内が届いています

日本EU学会国際交流委員会は、2015年より、国際学会で報告する若手研究者への支援を行っています。昨年EUSA-AP 韓国ソウル大会には、黒田友哉氏が参加報告され、第1回目の国際学会報告の若手研究者支援を行いました。

以下の学会、ないしその他の学会で、EU に関してのパネルで報告される予定のある方は、日本EU学会国際交流委員会まで、必要資料をそろえてご連絡下さい。審査の上、基準を満たした方には支援を行わせていただきます。

- (1) アジア・太平洋EU学会(EUSA-AP): 2016年6月29-30日、香港
- (2) 英国EU学会(UACES): 2016年9月5-7日、Queen Mary, University of London
- (3) 米国EU学会(EUSA): 2016年5月4-6日、Miami
- (4) その他、Singapore EU Centre, Taiwan EU Centre 等のEU Centre/Institute などが主催するシンポジウムや Round Table などでの報告も可能です。

資格は、2016年4月1日現在、40歳まで(40歳含む)の若手研究者、専任の職についていない方、院生の方を優先します。

1回の報告につき、アジアの場合10万円までの渡航費と宿泊代、ヨーロッパ・アメリカの場合、20万円までの渡航費と宿泊代を、それぞれ実費上限として

支援します。但し、主催者による支援(例えば、宿泊費は主催者負担など)は、その分については支援の対象になりません。

申込先: 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 青山学院大学 羽場久美子 気付  
日本 EU 学会国際交流委員会 宛て  
<http://www.eusa-japan.org/?p=1318>

### 【EUSI サマースクール案内 (EUSI 加盟大学学部生・大学院生対象)】

EUSI では、毎年ヨーロッパとアジアで 1 週間ずつ、合わせて 2 週間の期間で、EU に関する様々な授業を行うサマースクールを開講しています。  
今年も、東京(一橋大学)とベルギー(ルーヴァン・カトリック大学)で開講し、日本(EUSI:一橋・慶應・津田塾)、ベルギー(ルーヴァン・カトリック大学)、韓国(ソウル国立大学校)から各 10 名の学生の参加を予定しています。

EUSI 加盟の一橋・慶應・津田塾の学生の皆様、ぜひ奮ってご参加ください。

対象者: 一橋、慶應、津田塾各大学 3・4 年生・大学院生で EU に興味のある学生  
(但し一橋大学の学部生については「EU 入門」を既に履修した学生を優先)  
募集人員: 計 10 名

開催期間: 2016 年 8 月 22 日(月)-9 月 3 日(土)  
8 月 22 日(月)-8 月 26 日(金) 日本 (一橋大学)  
8 月 27 日(土)-8 月 28 日(日) 移動  
8 月 29 日(月)-9 月 3 日(土) ベルギー (ルーヴァン・カトリック大学)

応募書類: 次の書類を各大学の EUSI 事務局または分室にご提出ください  
1. 申請書(所定の様式)、2. 応募理由 英文で A4 版 1 頁以内(様式は任意)  
応募締切: 2016 年 5 月 9 日(月)

その他詳細については以下:  
<http://eusi.jp/collaboration/2016summer-school/>

過去の EUSI サマースクール参加者による報告は以下:  
2015 年参加: 並木優斗(一橋院修士)  
[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_079/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_079/)  
2014 年参加: 石井雅浩(一橋院修士)  
[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_057/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_057/)  
2013 年参加: 本間篤実(慶應 3 年)、須藤香織(一橋 4 年)、石居莉果(津田塾 3 年)  
[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_033/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_033/)  
[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_035/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_035/)  
[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_036/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_036/)  
2014 年フォトギャラリー (2014.8.18-8.30 Euro-Asia Summer School):  
<http://eusi.jp/photogallery/>

### 【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

小串聡彦 (EUSI 研究員)  
「EU 離脱後に英国が迫られる選択 (1)」  
('ブリュッセルの政治動向分析'、2016 年 4 月 20 日)  
<https://toshihiko-ogushi.com/2016/04/20/>

小串聡彦 (EUSI 研究員)

「英国の EU 残留の鍵は若者の投票率」  
 («ブリュッセルの政治動向分析」、2016 年 4 月 9 日)  
<https://toshihiko-ogushi.com/2016/04/09/>

林大輔 (EUSI 研究員)  
「2015 年 10 月習近平訪英—英中関係「黄金時代」の光と影」  
「パリ同時多発テロ事件と EU 基本条約に基づく集団的自衛権発動」  
「年表(2015 年 1 月-12 月)」(欧州担当)  
拓殖大学海外事情研究所編『年鑑海外事情 2016』(創成社、2016 年 3 月 31 日)  
<https://www.books-sosei.com/sp/nenkan2016.html>

### 【EU に関する新刊紹介】

岡部みどり編『人の国際移動と EU 地域統合は「国境」をどのように変えるのか?』  
(法律文化社、2016 年 4 月 15 日刊行)  
<https://www.hou-bun.com/cgi-bin/search/detail.cgi?c=ISBN978-4-589-03773-2>

本書の編者である岡部みどり先生より、本書のご紹介を頂きました。

---  
本書は、人の国際移動(International Migration)が国際関係とどのように連動しているかを明らかにしようとする試みである。

国際移動というからには複数の国家がかかわる現象であることは言うまでもないが、意外なことに人の移動と国家との関係についての研究は極めて少ない。とりわけ、従来の研究の多くは、「なぜある国家が外国人を受け入れる(または、受け入れない)という判断を下すのか」、ということを問うてこなかった。

多くの先行研究から推察できるのは、外国人に対する国境開放こそが寛大な処置であり、国境の閉鎖は非リベラル、または非民主的な遅れた制度であるという隠れた示唆である。これに対して、そのような倫理的な見方を真っ向から否定はしないものの、本書はやみくもに受け入れ国家の閉鎖性を糾弾することはせず、むしろ現実的な視点から、「国家はなぜ望ましい出入国管理が実現できないのか」というさらに踏み込んだ疑問に答えようとするものである。

このような立場から、本書は難民や移民(外国人)を受け入れるときの諸問題が、国家の法制度、経済、政治社会の観点からどのように描き出せるかを検討することで、受け入れ国家が「一枚岩」ではないことを示した。とりわけ、欧州統合という地域統合プロジェクトが人の国際移動にどのような影響を与えたかを明らかにすることが、本書の目的であった。

一般に移民や難民の問題を受け入れ国家の権力の問題と捉える人々は、出入国管理制度がどのようにして出来上がったかということに関心を寄せないことが多い。

EU の出入国管理、言い換えれば「シェンゲン圏(Schengen area)」は、最初から意図されていたというよりも、むしろ、経済や安全保障面での欧州統合を補完するものとして形成された。しかも、当時の欧州の政治エリートの間ではこの問題への関心は非常に低く、各国で深刻な政治問題化した今になってようやく議論が本格化してきたという感がある。その流れを把握することではじめて、建設的な政治/行政批判が可能になるということを、本書を通じて特に強調したい。

本書は、人の国際移動をその基礎から問い直すという試みである。執筆者の方々には、初学者に向けた論考をお願いしたが、その趣意は、文字通りはじめてこの問題に関心を持つ読者の好奇心を満たすという狙いだけでなく、既に人の国際移動という(研究)テーマに携わっている多くの読者にも、このテーマの本質、その多様な側面についていま一度思いを寄せていただくことへの期待でもある。

岡部みどり (上智大学法学部国際関係法学科教授)

### 【EU に関するニュース】

- 2016 年 4 月 1 日 EU・コンボ安定化・連合協定(SAA)発効。同国の民主化支援や知財等の自由貿易制度適用へ
- 2016 年 4 月 1 日 中国、日・韓・EU 製の方向性電磁鋼板でダンピングと仮認定。EU も昨年中国製等と同措置
- 2016 年 4 月 2 日 モゲリーニ上級代表、アルメニアとアゼルバイジャン間の領土紛争の激化を憂慮する声明
- 2016 年 4 月 2 日 ウィキリークス、ギリシャ支援で独に債務軽減と IMF 離脱を示唆する IMF 幹部協議記録公表
- 2016 年 4 月 3 日 ICIJ、パナマ法律事務所オフショア取引文書の存在公表。欧州要人含め租税回避疑惑浮上
- 2016 年 4 月 4 日 EU、トルコとの合意に基づき不法移民のトルコ送還措置を開始。人権団体や難民らは反発
- 2016 年 4 月 4 日 欧州委員会、原発の安全性や投資・廃炉に関する「原子力説明プログラム(PINC)」発表
- 2016 年 4 月 4 日 Eurostat、2 月失業率(季節調整済)はユーロ圏 19 カ国 10.3%で前月比減、EU28 カ国は 8.9%
- 2016 年 4 月 4 日 デロイト社調査、英大手企業 CFO の 75%が英 EU 残留希望と回答、前回調査より 10%以上上昇
- 2016 年 4 月 5 日 第 1 回 EU・バングラデシュ移民管理対話、ダッカで開催。移民や人の移動に関する協力協議
- 2016 年 4 月 5 日 欧州委員会、緊急事態にある 42 か国・230 万人超の児童に対し 5200 万ユーロの教育支援発表
- 2016 年 4 月 5-7 日 ポロシェンコ・ウクライナ大統領来日。6 日首脳会談、同国支援や原発事故協力など協議
- 2016 年 4 月 6 日 EU 及びマレーシア、パートナーシップ協力協定(PCA)仮調印。ASEAN10 カ国内では 6 カ国目
- 2016 年 4 月 6 日 欧州委員会、「ハイブリッドな脅威に対処する共同枠組: EU の対応」政策文書を採択
- 2016 年 4 月 6 日 欧州委員会、欧州共通庇護制度(CEAS)の改革を提案。基準の調整や庇護支援事務所強化等
- 2016 年 4 月 6 日 欧州委員会、EU の域外国境管理と域内治安を高める情報システムに関する政策文書を採択
- 2016 年 4 月 6 日 欧州銀行監督機構(EBA)、域内銀行リスク資産定期報告。銀行の利益率は 4.7%と低迷続く
- 2016 年 4 月 6 日 第 1 回 EU・中国シンクタンク対話。ヴィーガント EEAS アジア太平洋局長、EU・中国関係総括
- 2016 年 4 月 6 日 オランダ国民投票、EU・ウクライナ連合協定を賛成 36%・反対 64%の大差で否決
- 2016 年 4 月 6 日 英調査会社 ICM 世論調査、英 EU 残留支持 44%、離脱支持 43%で拮抗、態度未決 13%
- 2016 年 4 月 7 日 ECB、2015 年度報告書発表。ユーロ圏に脆弱性残る一方、資産購入など量的緩和の実績総括
- 2016 年 4 月 7 日 ECB、3 月理事会議事要旨公表。追加緩和の必要性で一致も、具体策をめぐる理事間で異論
- 2016 年 4 月 7 日 欧州委員会、VAT(付加価値税)に関し電子商取引上の規則簡素化など制度改革行動計画発表
- 2016 年 4 月 8 日 第 1 回 EU・インドネシア閣僚級戦略対話、ジャカルタで開催。テロや海洋安保等幅広く協議
- 2016 年 4 月 9 日 モゲリーニ上級代表、ミン ASEAN 事務総長や ASEAN 常駐代表委員会と EU・ASEAN 関係深化協議
- 2016 年 4 月 10 日 ヤツェニウク・ウクライナ首相辞意表明。14 日ウクライナ議会、グロイスマン新首相選出
- 2016 年 4 月 10-11 日 G7 広島外相会合、モゲリーニ上級代表参加。テロや海洋安保等協議、原爆資料館訪問
- 2016 年 4 月 11 日 EU 理事会、人権上の懸念のため、対イラン制裁措置を 1 年延長。82 人及び 1 団体が対象
- 2016 年 4 月 11-15 日 日・EU EPA(経済連携協定)交渉第 16 回会合、東京で開催。自動車や食品関税など協議
- 2016 年 4 月 12 日 欧州委員会、EU 各加盟国の難民緊急移送と再定住計画の進捗確認。特に移送の停滞に警鐘
- 2016 年 4 月 12 日 欧州委員会、多国籍企業の納税報告公開義務など、税の透明性に関する新ルールを提案

- 2016 年 4 月 12 日 IMF、四半期毎の「世界経済見通し」で、英 EU 離脱は世界経済に深刻な影響及ぼすと警告  
 2016 年 4 月 13 日 ユンカー委員長、中国鉄鋼製品のダンピング調査次第で更なる措置取ると欧州議会で証言  
 2016 年 4 月 13 日 Eurostat、2 月鉱工業生産(季節調整済)はユーロ圏 19 カ国前月比-0.8%、EU28 カ国同-0.7%  
 2016 年 4 月 13 日 OECD、2015 年度 ODA 統計発表。EU 全体の ODA 支出は 680 億ユーロ・対 GNP 比 0.47%で世界最大  
 2016 年 4 月 14 日 日・EU 外相電話会談。G7 外相会合の成功祝福、日・EU EPA・SPA の早期妥結への協力確認  
 2016 年 4 月 14 日 欧州議会、「忘れられる権利」や事業者の罰則強化など、新たな個人情報保護規則を可決  
 2016 年 4 月 14 日 欧州議会、テロリスト情報管理のため乗客予約記録(PNR)の提出を義務付けた EU 指令支持  
 2016 年 4 月 14 日 欧州研究会議(ERC)、277 名もの研究者に総額 6.47 億ユーロの上級助成金の支給を発表  
 2016 年 4 月 14 日 熊本で M6.5 の地震、16 日同 7.3 の本震で 40 名超犠牲。16 日モグリーニ上級代表ら哀悼声明  
 2016 年 4 月 14-15 日 G20 財務相・中央銀行総裁会議、米で開催。英 EU 離脱リスク懸念、租税回避対策等協議  
 2016 年 4 月 15 日 モグリーニ上級代表、イランペドゥーザ島訪問、地中海 EU 海軍部隊「ソフィア作戦」視察  
 2016 年 4 月 15 日 駐中 EU 代表部及び加盟国大使、王毅外交部長とワーキングランチ年次会合にて意見交換  
 2016 年 4 月 15-19 日 ホーガン農業担当欧州委員訪中。EU 農産品販促や韓長賦農業部長と地理的表示等協議

### 【編集後記】

EUSI では毎年 8 月にサマースクールというものを実施しています。

これは EUSI 構成 3 大学の学生、ソウル国立大学の学生及び欧州の学生がアジアで 1 週間、ベルギーで 1 週間ともに勉強するというものです。今年はブリュッセルのテロ事件を受け、ベルギー滞在中の学生の安全や勉強の環境に不安があったために開催が危ぶまれていましたが、ルーヴアン大学側の強い意向と配慮により、東京とルーヴアンで開催される予定になっています。

東京でも国の中枢機関の見学を行います、ベルギーでも欧州委員会のユーロクラットから話を聞く時間を設けています。今年は、場所をブリュッセルではなくルーヴアンに設定することになるでしょう。また、日本、韓国、欧州の一流の研究者から中味の濃い講義を聴き、議論できることは学生にとって大変有益な知的体験となっています。もちろん、2 週間共に過ごす学生たちの間に友情が芽生えることの意味もはかり知れません。

EUSI では、現在の厳しい環境の中で、このサマースクールが何とか成功裏に実施されるために活動を進めていきますし、その結果についても発信していきたいと考えています。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

スペインのカタルーニャ地方では、4 月 23 日は「サン・ジョルディの日」と呼ばれ、親しい人に本やバラを贈るという習慣があります。

サン・ジョルディとは龍を退治した伝説を持ち 4 月 23 日に殉教したと伝えられるキリスト教の聖人であり、イングランドでは国旗にある赤の十字を「セント・ジョージ・クロス」と呼んでその名を讃えています。

「サン・ジョルディの日」に本を贈るという習慣が生まれたのは、4 月 23 日がスペインの文豪で『ドン・キホーテ』の作者であるセルバンテスやイギリスの偉大な文豪シェークスピアの命日に当たることから来ており、今年はちょうどふたりの没後(1616 年)400 周年という節目の年に当たります。

カタルーニャから始まった「サン・ジョルディの日」の習慣は、その後世界へ広がってゆき、1995 年にユネスコは 4 月 23 日を「世界本の日」に制定しました。

現在では、世界的に書店や図書館などで読書に関する様々なイベントが行われています。また同様に、本や読書の推進に力を入れる「世界本の首都」として今年選出されたポーランドのヴロツワフは、偶然にも EU が制定している今年の「欧州文化首都」でもあり、この週末は街の至るところでカルチャーナイトや朗読会などのイベントが開かれてました。

翻って日本では、読書離れが進み、1 カ月に 1 冊も本を読まないと答える割合が 5 割近くにのぼりますが、他方で EU に関する書籍も含めて以前よりもはるかに信頼性が高く、知的好奇心を掻き立てる面白い本も数多く世に出てきています。すこしでも多くの方が良書を手取る機会に恵まれればと願っています。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp

---